

経鼻カテーテルを適切に選びましょう！

《当院で使われている経鼻カテーテル》

サンプルチューブ

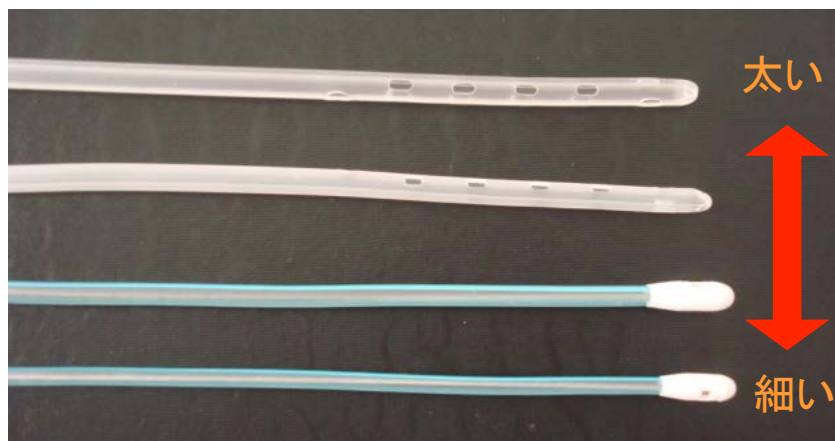
16 Fr

14 Fr

フィーディング
チューブ

12 Fr

10 Fr



◎経鼻カテーテルを使用する際の注意点◎

●経腸栄養専用カテーテルを使用しましょう

消化管の減圧やドレナージの目的で使用されるカテーテル(サンプルチューブ)は材質も硬く、口径も太いため副鼻腔炎や、鼻翼潰瘍などの合併症を引き起こす可能性が高いので経腸栄養カテーテルとしての使用には適しません。

経腸栄養の際は必ず、口径が細くやわらかい素材で作られている**経腸栄養専用のカテーテル(フィーディングチューブ)**を使用しましょう。

●できるだけ細いカテーテルを使用しましょう

カテーテルの口径は細いほど患者様の苦痛が軽減され、機械的合併症や、胃食道逆流のリスクも小さくなります。

また、太い経鼻カテーテルは嚥下の妨げとなることが多いため、**経口摂取と併用するには10Fr以下のカテーテルを用いる**ようにしましょう(ただしクレメジン細粒などチューブ閉塞を起こしやすい薬剤を投与する場合は注意が必要です)。

●定期的に交換しましょう

通常は、経鼻アクセスは4週間未満の短期間に経腸栄養を施行する場合での使用が原則とされています。しかし、やむを得ず経鼻カテーテルでの経腸栄養を長期間施行する場合は、カテーテルの汚染や劣化による合併症予防のためにも**1ヶ月に1回程度の交換**をおすすめします。

第15回 岐阜南NST研究会報告

7月23日(木) 18:30～20:00 南館1階講堂



特別講演

『栄養管理における看護師の役割はコレ
—看護の専門性を見失わない!— 』

医療法人 明和病院 看護部長 矢吹浩子先生

今回のNST研究会では、看護師の講師としては初めての矢吹浩子先生を当院にお招きして特別講演を開催し、院内・院外から多くのスタッフが参加して盛況な会となりました。

講演ではチーム内での各職種の専門性を活かしたすみわけについてや、今年から新たに始まった特定看護師制度についてなど、他では聞くことの出来ない興味深い話をたくさん聞くことができました。

参加者85名(院外10施設22名、院内:63名)



☆矢吹先生とNSTメンバーとの記念撮影☆

お知らせ

第4回・第5回 院内NST研修会

17:30～18:30
南館1階講堂

第4回 9月2日(水)

第5回 10月7日(水)

】・静脈栄養について
・栄養療法の進め方と評価について

どの職種でも参加可能です。栄養に興味のある方ならどなたでもご参加下さい!